

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
105-18	中学校	社会	社会（公民的分野）	3年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	公民 116-92	中学社会 公民的分野		

1. 編修の基本方針

心が動く、
その先へ。

生徒たちは知らないことや説明のつかないことに会おうと何かな、なぜだろう、と心が動きます。それが学びの始まりです。その動きを受け止め、道筋を示し、その先へといざなうことが、私たちの願いです。

私たちの教科書は、生徒たちを**新しい時代を担う主権者**へと育てるために、めまぐるしく変化する混沌とした現代社会を生き抜く力をつけ、「公民としての資質・能力の基礎」を育成することをめざして編修しました。

本教科書は、教育基本法第2条の教育の目標を達成し、その基本理念を実現するために、以下の三つを基本方針として、編修にあたりました。

基本方針

1

生徒が主役の 楽しい学び

単元を貫く問いをつかみ、
主体的・対話的で深い学びへと
導きます。



基本方針

2

社会科授業を 手厚くサポート

生徒は基礎的・基本的な知識・技能が
確実に身につく、教師は指導と評価の
ポイントが一目でつかめます。



基本方針

3

よりよい社会と 豊かな人生の創造へ

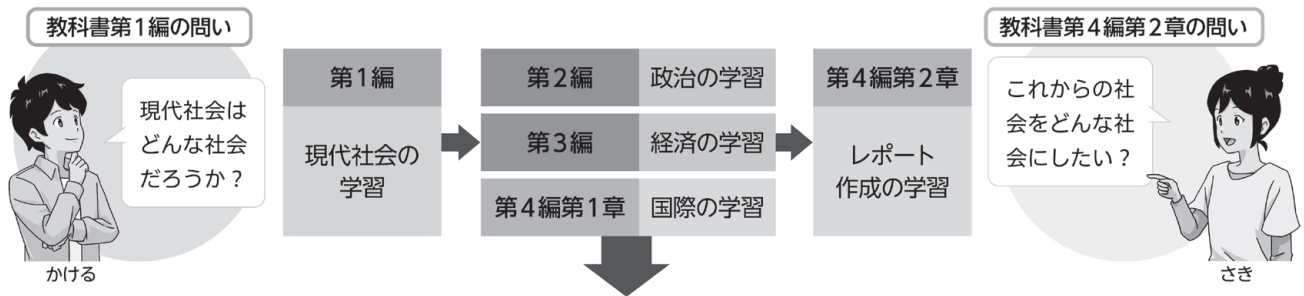
持続可能な社会を実現し、
豊かな人生を切り拓くための生きて
働く力を鍛えます。



生徒が教科書全体での学習を通して「何ができるようになるか」を見通すことのできる構成にして、学びの成果や自己の成長を振り返ることができるように編修しています。

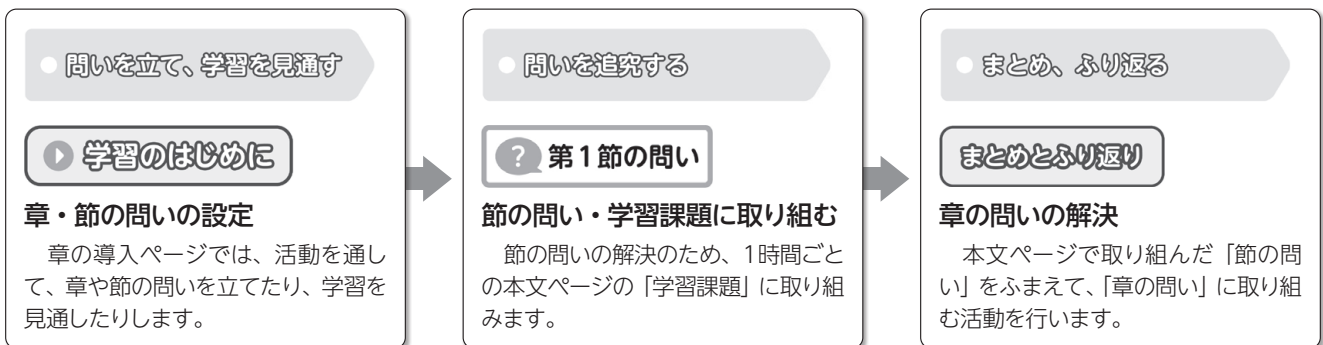
教科書全体の構成 教科書を貫く問い「これからの社会をどんな社会にしたい？」

公民で最初に学習する第1編で、現代社会の特色と課題をとらえ、第2編から第4編第1章の学習で身につけた資質・能力を生かしながら、最後に学習する第4編第2章で、現代社会の抱える課題の解決を考察・構想する構成としています。教科書を貫く問いを設けることで、生徒が公民的分野の学習を通じて、成長を感じることができる教科書を目指しました。



生徒が問いを立て、学習の見通しと振り返りができる単元構成（第1編～第4編第1章）

「どのように学ぶのか」を明確にするため、章・節の単元を貫く問いを構造的に配置する構成にしています。各章の学習では、章の問いを追究するため、いくつかの節の問いを解決していき、「まとめとふり返し」ページで章の問いを改めて考えるという構造にしており、公民的分野の資源・能力の育成に向けて、指導と評価の一体化を実現します。



各章の学習では、個別最適な学び、協働的な学びに関連した箇所には「学び合い」マークを付し、問いを充実させ、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるような構成となっています。

教科書 QR コンテンツ —ICT（情報通信技術）を活用した学習—

個別最適な学びを実現するために

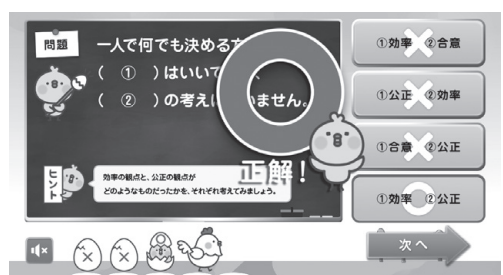
各自の学習進度やペースに合わせた様々な教材を用意しています。コンテンツがある場所に、タブレットマークを設けて、「関連資料」「リンク」といった文字を入れて、コンテンツの種類がわかるようにしました。

主なコンテンツ

- ・イントロダクションムービー ～学習を見通して授業への意欲を高める～
節の新しい学習にスムーズに取り組むことができるよう、節の最初のページに、節の学習のポイントをまとめた動画を用意しました。生徒の学ぶ意欲を引き出す内容で、主体的な学習を支援します。
- ・ポートフォリオ ～単元のまとめりで振り返りができる～
章や節の学習成果を記録するワークシートで、章や節の問いに対する最初の予想と、学習後に自分の考えがどう変わったかを振り返ることができます。主体的に学習に取り組む態度の評価に対応しています。
- ・確認小テスト ～毎時間の知識の定着のために～
本文ページの1見開きごとの知識を整理するクイズです。



↑イントロダクションムービー



↑確認小テスト

社会科授業を手厚くサポート

生徒は基礎的・基本的な知識・技能が確実に身につく、教師は指導と評価のポイントが一目でつかめます。

- 基礎・基本をおさえた本文ページは、1授業時間を見開き2ページとし、この見開きで「何を学ぶのか」を「学習課題」で明確に示し、「学習課題」と対応した「確認・表現」コーナーで、本文ページの学習を確かめるための問いを設けています。これにより、生徒に基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるとともに、教師は、授業計画が立てやすく、毎時間の学習指導の改善に役立てることができるようにしています。
- 深い学びを実現するために、すべての本文ページで「見方・考え方」を働かせて学ぶことができる構成です。

導入資料

本文ページの導入になる資料と、それに関する問いかけを設けています。

学習課題

本文ページで何を学んでいくのかを示しています。この課題を考えながら、学習を進めましょう。

確認

表現

学習課題に対応し、本文ページの学習を確かめるための問いを示しています。学習の最後に取り組みましょう。

見方・考え方

学習課題の解決に向けて手がかりになる主な「見方・考え方」の例を示しています。

資料活用

資料を用いた活動を提案しています。

第○節の問い

節のまとめりで追究する問いを1時間の学習でも意識しながら、取り組みましょう。

二次元コード

タブレットマーク

SDGsと特に関連する箇所です。

アクティビティ

「見方・考え方」を働かせて、学習内容の理解を深める活動を行います。

学び合い

話し合いなど対話的な活動を行う箇所を示しています。

地理・歴史

地理や歴史の学習とのつながりを示します。

よりよい社会と豊かな人生の創造へ

持続可能な社会を実現し、豊かな人生を切り拓くための生きて働く力を鍛えます。

持続可能な社会の形成に向け、社会の課題を自分ごととして捉え、解決する態度を培えるよう編修しました。

▲P.122-123 まちづくりに参加しよう

●明日に向かって (10 テーマ)

新しい時代を築く社会の参画者を育てることができるように、身近な地域の抱える課題を考える学外活動や、生徒の近い将来への想像を膨らませる手掛かりとなるページとして構成しています。

▲P.218-219 地球温暖化に対する政策について考えよう

●チャレンジ公民 (5 テーマ)

各章の学習内容や「見方・考え方」を活用し、現代の社会の課題について考察、構想する活動を行います。争点を明確にして、資料を提供し、全ての生徒が議論に参加できるように構成しています。

2. 対照表

教育基本法第2条各号に示す教育の目標を達成するために、教科書全体を通して、以下のような配慮をしています。

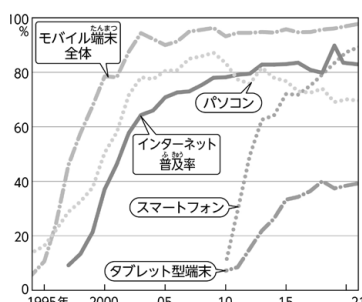
図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭	●「これからの社会をどんな社会にしたい？」では、現在の国際社会共通の目標である持続可能な開発目標（SDGs）について、教科書を通して考えられるよう配慮しました。（第1号～第5号）	巻頭1～ 巻頭2
第1編 私たちと現代社会 第1章 私たちが生きる現代社会	●現代社会の特色や現代社会に受けつがれる文化について理解することで、我が国や郷土を愛する心情を育むとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう配慮しました。（第3号、第5号）	P.6～23
第2章 現代社会の見方・考え方	●社会的存在である人間を基礎に置き、きまりや見方・考え方の学習を通して、個人の価値を尊重し、自主及び自立の精神を養い、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養えるよう配慮しました（第3号、第5号）	P.24～37
第2編 私たちの生活と政治 第1章 個人の尊重と日本国憲法	●立憲主義に基づく日本国憲法の学習では、個人の尊重に基づいた民主主義と法の支配の基礎を学び、人権の意義と問題を具体的にとらえさせることで、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んじ、生命を尊ぶ態度が養えるように配慮しました。（第2号、第3号、第4号）	P.38～81
第2章 国民主権と日本の政治	●立憲主義に基づく権力分立を基礎として、国民主権に基づく民主政治の意義と国会や内閣の役割を理解するとともに、地方公共団体の取り組みを自らの問題として考えられる学習を通して、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮しました。（第1号、第3号）	P.82～127
第3編 私たちの生活と経済 第1章 市場のはたらきと経済	●将来、生徒が様々な場面で経済と関わることを想定し、消費、生産、金融単元の基礎的な知識を通して、社会生活における自己実現や社会貢献を考えられるようにし、労働の問題を自らの問題として考え、勤労を重んずる態度を養うことができるよう配慮しました。（第1号、第2号、第3号）	P.128～169
第2章 国民の生活と政府の役割	●財政及び租税の役割について理解するとともに、財政の役割について考えられる学習を通して、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮しました。（第1号、第3号）	P.170～187
第4編 私たちと国際社会 第1章 現代の国際社会と課題	●国連等の国際機関や政治、経済、文化、環境の問題を幅広く取り上げることで、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう配慮しました。また、主権や領土の学習を充実させました。（第1号～第5号）	P.188～221
第2章 私たちの課題	●公民の学習の最後に行う社会的な課題の解決の学習では、レポートの作成を通して、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮しました。（第1号、第3号）	P.222～230

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(1) 共生社会の実現に向けた配慮 —すべての生徒にとって使いやすい紙面—

●カラーユニバーサルデザインに配慮した教科書

特別支援教育やカラーユニバーサルデザインの観点から、グラフなどの情報を負担なく読み取ることができるように工夫しています。



▶P.11

●ユニバーサルデザインフォントの使用

教科書本文には、だれにでも見やすく読みやすい「ユニバーサルデザインフォント（UDフォント）」を使用しています。本文以外の箇所にも、適切なUDフォントを使用しています。

●点字加工ページ

紙面の一部に点字加工を施し、生徒自身の手で実物の点字に触れることで、様々な立場の人がよりよくくらすための工夫に気づくことができます。

●ルビ（ふりがな）

小学校6年生以上で学習する漢字の初出箇所と、すべての重要語句に、ルビを付けました。



エントランス

▲P.57

(2) 現代的な諸課題への対応

● 18歳成人や選挙権にかかわる内容

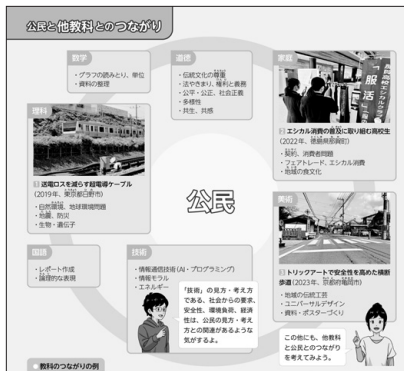
主体的に社会に参画する意欲や態度を培い主権者意識を高めることができるよう、見開きページを使って、次のような教材を用意しています。

〈例〉キャリア教育 (P.160-161)、契約 (P.138-139)、実際の選挙の流れがわかる教材 (P.86-87)、大人と子供の違いを考える教材 (P.72-73) など

●カリキュラム・マネジメントへの支援

地理や歴史との分野間連携では、分野間連携コーナー（本文右ページ脚注）や、世界地図 (P.254-255)、現代史年表

(P.256-257)、高等学校公民科「公共」との接続を行うページ (巻末1)、公民の学習内容と他教科との関連を示唆するページ (巻末3) を設けて、多面的・多角的に考えることができるようにしています。



▲巻末3ページ

●道徳教育と関連する教材

道徳の四つ視点のうち、Cの「主として集団や社会との関わりに関すること」については、特に次の項目を各所で取り扱いました。

〈例〉「公正、公平、社会正義」(P.31、52-55)、「社会参画、公共の精神」(P.15、121)、「国際理解、国際貢献」(P.13、19、208) など

●SDGsを自分ごととして考えることができる教材

学習指導要領で取り扱うこととされた持続可能な開発目標 (SDGs) に関わる現代的な課題を考えることができる教材を多数掲載しています。

〈例〉巻頭1-2、P.14-15、P.16-17、P.190-191、P.216-217 など

●基本的人権に関わる教材

従来からの課題に加えて、現代における新しい課題にも目配りして掲載し、自らも関わる課題として解決に取り組むことができるように掲載しています。

〈例〉性の多様性 (P.54)、バリアフリー (P.55)、ハンセン病 (P.61)、情報化と人権 (P.62)、AIと人権 (P.65)、子どもの権利条約 (P.69)、えん罪と「代用監獄」(P.107)、労働基本権 (P.155)、難民 (P.204、209)、人間の安全保障 (P.209) など

●環境・資源・エネルギーに関わる教材

持続可能な社会への取り組みも視野に入れて、地域社会から国際社会の課題について、自らも関わる課題として取り

組むことができるように掲載しています。

〈例〉持続可能な社会 (P.14、191)、環境権 (P.68)、京都市の景観とまちづくり (P.70)、環境保全の担い手としての政府 (P.175)、共有地の悲劇 (P.193)、資源・エネルギー問題 (P.212)、地球環境問題 (P.214)、カーボンニュートラル (P.215) など

●平和・命の尊さに関わる教材

個人の尊厳の基盤となる平和に関する教材は、日本と世界の最新の事例も掲載し、自分自身に関わる切実な課題として考えることができるようにしています。

〈例〉日本国憲法の平和主義 (P.74)、沖縄と基地問題 (P.77)、ロシアのウクライナ侵攻 (P.205)、軍縮 (P.206)、日本の平和主義と国際貢献 (P.208) など

●防災・減災に関わる教材

近年、多発する自然災害に対する防災・減災への備えと、自助・共助・公助の実践的な内容を、公民で学習する観点に基づいて掲載しました。

〈例〉情報化を生かした防災への取り組み (P.11)、災害と地方自治 (P.115)、災害に強いくらしをきずく (P.102)、災害にそなえるには (P.224) など

●伝統・文化に関わる教材

社会を形づくる文化と文化の多様性、文化を支える私たちという観点から教材を掲載しています。

〈例〉2025大阪・関西万博 (P.15)、文化の多様性 (P.19)、日本の伝統文化 (P.20)、文化の創造 (P.21)、世界の文化と宗教 (P.202-203) など

●社会の大きな課題に関わる教材

新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナ侵攻といった、社会に大きな影響を与えたできごとに関わる教材を各所に掲載しています。

・新型コロナウイルス感染症〈例〉P.13、31、71、179、191 など
・ロシアのウクライナ侵攻〈例〉P.191、205、209 など



▲P.71 公共の福祉に関する問題

●情報化に関わる教材

生徒とも関わりが深い情報化に関わる教材を充実させて、情報化社会で考えさせたい課題を掲載しています。

〈例〉ビッグデータ、AI (P.10、63、67、141、145)、情報リテラシー (P.11)、情報モラル (P.11、65)、プライバシーの権利 (P.63)、フィルターバブル (P.64)、フェイクニュース (P.65)、携帯電話のルールづくり (P.73)、メディアリテラシー (P.91、93) など

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
105-18	中学校	社会	社会（公民的分野）	3年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	公民 116-92	中学社会 公民的分野		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

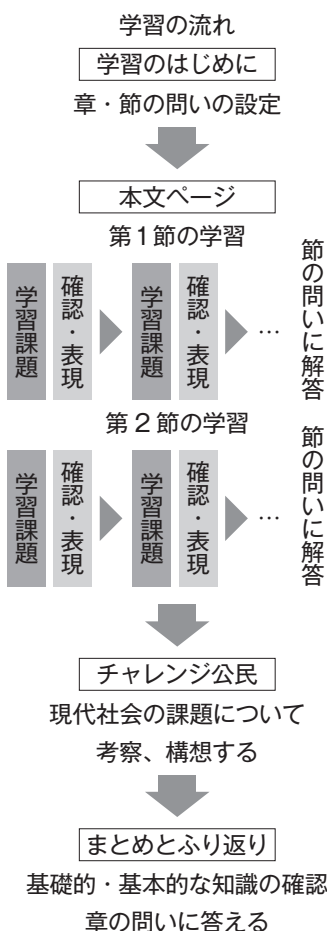
新しい時代を担う主権者を育てる

人権・環境・平和といった普遍的な価値を基礎として、現代社会の諸課題に対して公正や個人の尊重といった見方・考え方をを用いて判断ができるよう、「**公民としての資質・能力の基礎**」を育成することをめざして編修しました。また、生徒が公民の学習を通して自らの成長を実感し、学習を社会に生かし、将来に希望をもって生きていくことができる内容をめざしました。

特色 1 「主体的・対話的で深い学び」の実現のための工夫

①見通しをもって学習に取り組める単元構成

下図のように、教科書に構造的に「章の問い」や「節の問い」を設定し、その回答を行うコーナーやページを設けており、生徒が何をどのように学ぶのかの見通しをもって学習に取り組めるようにしています。また、紙面上の二次元コードから弊社 Web サイトにアクセスすることで利用できる「教科書 QR コンテンツ」には、この構造的な問いに沿ったワークシート「ポートフォリオ」を用意しており、指導者にとって内容のまとまりに沿った指導と評価をしやすいように工夫しています。



学習のはじめに

章の導入ページとして、活動を通して章の問いや節の問いを立てたり学習を見通したりします。また、何を学ぶかをとらえるための教材として、学習内容と生徒の身近な生活を結び付けた漫画を採用しており、生徒にとって取り組みやすくなるように工夫しています。

本文ページ

本文ページでは節の問いの解決に向けて、1時間ごとに「学習課題」、「確認・表現」の問いに取り組みながら学習を進めます。

「節の問いに答えよう」

節の最終見開きには、節の問いに解答するためのヒントとなる「節の問いに答えよう」を脚注に設置しています。

チャレンジ公民

各編の学習内容を活用し、現代社会の課題について考察、構想する活動を行います。

まとめとふり返し

基礎的・基本的な知識の定着を確認するとともに、学んだことをまとめ、章の問いに答える活動を示しています。本文ページで取り組んだ節の問いをふまえて章の問いに取り組めます。



↑P.82-83 政治ってなんだろう?



? 第1節の問いに答えよう

↑P.91 節の問いに答えよう



↑P.126-127 まとめとふり返し

②「見方・考え方」を働かせるための教材

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、編の学習のなかに学習指導要領で示された「見方・考え方」を働かせる学習活動を教科書内に多数設けています。

本文ページでは学習課題の解決に向けての手がかりとなる「見方・考え方」コーナーをすべてのページに設け、「アクティビティ」などを通して繰り返し見方・考え方を働かせられるようにしています。また、編末の「チャレンジ公民」では社会的な課題を探究するときにも、その考察の過程で見方・考え方を働かせるようにしています。

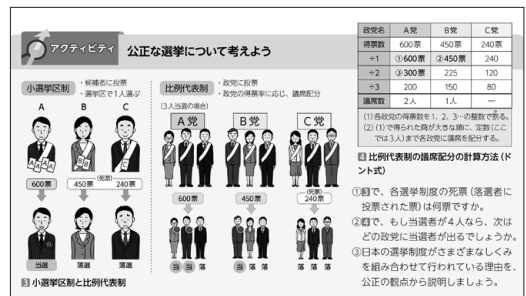
公民的分野の現代社会の見方・考え方は「民主主義」、「希少性」、「国際協調」といった抽象的な概念であるため、各編冒頭の本文ページで分かりやすく解説し、編の学習のなかで自然に繰り返し働かせられるようにしています。

▶P.130 希少性



「アクティビティ」は、本文ページのグラフやイラストなどの資料などをもとに「見方・考え方」を働かせる問いを考えることで、主体的・対話的で深い学びを実現し、当該見開きの学習内容の理解を深めることを意図して掲載しています。生徒の発達段階に応じて活動内容を調整できるように、資料の読み取りから始めるようにするなど設問を段階的にし、授業で使いやすい工夫をしています。

▶P.87 公正な選挙について考えよう



第4編第2章では、小学校社会科、地理的分野・歴史的分野を含めた中学校社会科の総まとめとして、持続可能な社会の実現のための課題を生徒自らが設定し、その解決に向けて考察、構想する学習活動を設けています。第4編第1章までの学習で、「アクティビティ」や「チャレンジ公民」を通して身につけて来た資質・能力を総動員して、自ら考え、提案を行う能力を育むことを意図しています。

▶P.228-229 生徒のレポート例



③協働的な学びを行うための工夫

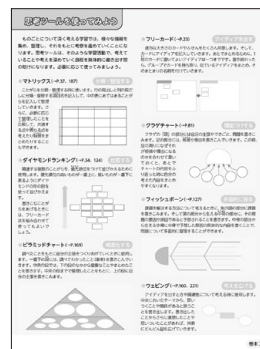
アクティビティなどの学習活動のうち、生徒どうし話し合いなど対話的な活動が効果的に取り入れられるものについては「学び合い」マークを付しています。



④社会的事象等について調べ、まとめる技能の育成

情報を収集し、読み取り、まとめる際に必要となる技能や情報リテラシー、情報モラルを育む教材として「情報スキルアップ」を設けています。また、収集した情報についてまとめたり、考察したりする際に活用できる多種多様な思考ツールを随所に示し、巻末にてその使い方を示し生徒の主体的・対話的で深い学びを支援しています。

さらに、教科書内の資料には、資料の読み取りを補助したり資料を使って考えたりする資料活用コーナーを適宜設けています。



▶巻末2 思考ツールを使ってみよう



▶P.64 「ネット社会」とつき合う方法

⑤知識を相互に関連付けて、理解を深めるための工夫

知識が社会のなかで生きて働くものとなるよう、教科書のなかで関係するページを示す参照ページを随所で示し、相互に関連付けられるようにしています。

社会保障は、この生存権を実現するための制

▶P.58

▶P.178 「社会保障のしくみ」

特色 2 よりよい未来の創造に関わる教材の充実

①生徒が将来に生かすことのできる教材

社会参画をうながすページとして特設ページ「明日に向かって」を設けています。持続可能な開発目標（SDGs）については、巻頭1-2にて17の目標を示すとともに、関連する内容を第1編から第4編までの学習の随所に登場させており、教科書全体を通してSDGsについて考えられるように工夫しています。



▲巻頭1-2 これからの社会をどんな社会にしたい?



▲P.138-139 契約について考えよう



▲P.216-217 SDGsから未来の社会を考えよう

②生徒がよりよい社会生活を営むための教材

法教育（P.27、41、104、136 など）、主権者教育（P.86、91、122 など）、消費者教育（P.138 など）、キャリア教育（P.160 など）、金融リテラシー教育（P.163 など）など、これからの社会を作り出していく生徒が自らの人生を切り開くために必要な教材についても、一層の充実を図っています。

法教育



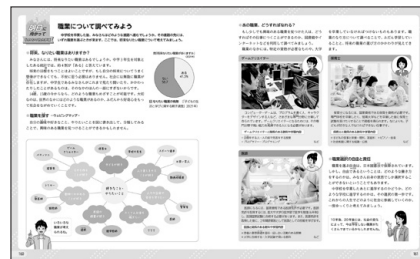
▲P.136 あなたも契約をしている

主権者教育



▲P.86 選挙の投票はどうするの?

キャリア教育

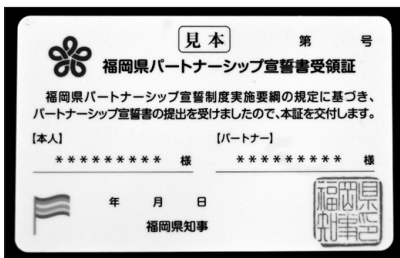


▲P.160-161 職業について調べてみよう

特色 3 公民を学ぶ楽しさを感じることができる教科書

①新しい事例や、生徒が身近に考えられる事例の掲載

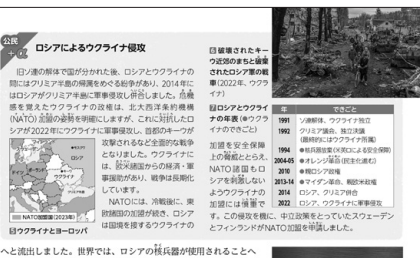
eスポーツ（P.10）、パートナーシップ制度（P.54）、フィルターバブル（P.64）、ゆるキャラ（P.114）、歩きスマホ禁止条例（P.126）、テレワーク（P.158）、新型コロナウイルスワクチンの接種（P.179）、ウクライナ侵攻（P.205）、マイクロプラスチック（P.217）、カーボンニュートラル（P.219）など。



▲P.54 パートナーシップ制度



▲P.158 テレワークで働く人



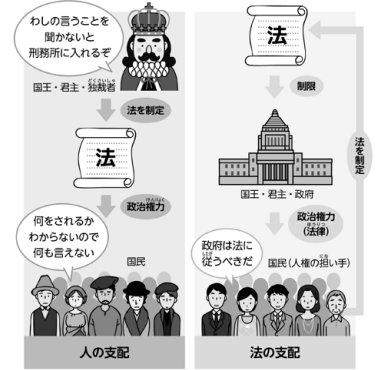
▲P.205 ロシアによるウクライナ侵攻

②読み取りがしやすい、知識の理解と定着を図るしくみ図

教科書全体を通して、抽象的な社会のしくみを具体的にイメージできる図版を豊富に掲載しています。大判紙面を生かした、大きく多彩な図版によるわかりやすい学びで知識が定着できるようにしました。



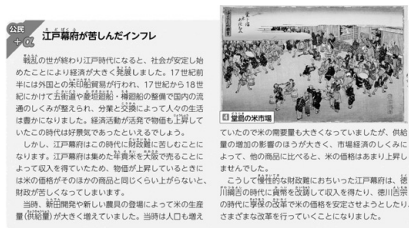
▲P.114-115 地域の特徴ある取り組み



▲P.43 人の支配と法の支配

③小学校社会科、地理的分野・歴史的分野、高等学校公民科「公共」との接続

公民的分野の学習のなかで、地理的分野や歴史的分野や小学校社会科で学習した知識を生かすことができるように、脚注に連携コーナーを設けるなどの工夫をしています。また、巻末では高等学校「公共」との接続を示し、中学校社会科での学習の成果をどのように生かしていくのかの見通しを持つことができるようにしています。



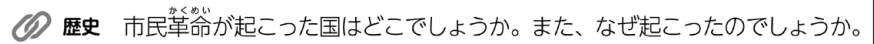
▲P.153 江戸幕府が苦んだインフレ



▲巻頭3 地理・歴史とのつながり



▲巻末1 高校の公民科「公共」とのつながり



▲P.41 私たちにとっての政治と民主主義

本教科書の特徴表

基本事項	準拠性	<ul style="list-style-type: none"> 教育基本法の遵守 <ul style="list-style-type: none"> ・教育基本法第2条の「教育の目標」を達成するため、同条第1項から第5項に示されるような人格の育成をめざした教科書としました。 学習指導要領の遵守 <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の社会科の目標、各分野の目標・内容・内容の取扱いをふまえた適切な教材を選択した単元構成としました。
	公正性	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の選定、記述にあたっては、一面的、断定的な見解に偏っていないか、広く受容されているかを十分に吟味、検証しました。
	正確性	<ul style="list-style-type: none"> ・検定基準に照らして正確な内容、表記・表現であることを検証しました。また、資料についても正確かつ最新の資料を選択しました。
内容・系統性	発達の段階への配慮 (小・中・高連携)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発達段階を考慮した内容とし、小学校の学習の振り返りや地理・歴史との分野間連携、さらには高等学校公民科「公共」との連携に配慮しました。
	配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> ・配列は、第1編「私たちと現代社会」、第2編「私たちの生活と政治」、第3編「私たちの生活と経済」、第4編「私たちと国際社会」の4編で構成し、100時間の授業時数で完結できるよう各編の内容を吟味しました。 ・教科書の中心となる本文ページは、見開き2ページを1授業時間と想定し、①導入資料→②「学習課題」→③「見方・考え方」→④「アクティビティ」→⑤「確認・表現」を基本構造とし、この流れをくり返し学習することによって、基礎・基本の確かな定着と思考力、判断力、表現力を育成することができるように構成しました。
	主体的・対話的で深い学びの実現	<ul style="list-style-type: none"> ・編(章)を通して、見方・考え方を働かせることができるように、具体的な問いや活動事例を提示した「アクティビティ」を教科書の各所に配置しました。編(章)末には既習の資質・能力を生かして社会の課題を考察・構想する「チャレンジ公民」を設けています。 ・話し合いなど、対話的な活動を行う箇所に「学び合い」マークを付しました。 ・4人の生徒と2人の先生が登場し、様々な場面での疑問や感想、提案等の発言を通して、生徒が自らと同じ目線で感じたり、疑問をもったりできるように工夫しました。
社会に関わった教育課程やカリキュラム・マネジメントの実現	<ul style="list-style-type: none"> ・「法教育」「主権者教育」「消費者教育」「キャリア教育」など社会とのつながりに関心・意欲をもって学習できるよう工夫しています。 ・学校ごとの生徒の姿や地域の実情に合わせ活用できるように、各種の教材を設けています。 	

内容・系統性	重点課題	<p>現代的・社会的課題への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重の精神と生命の尊重を基本に、人権・福祉や「情報モラル」、防災・減災に関わる内容などの現代的、社会的課題への対応を重視した教材を用意しました。 ・日本の領域をめぐる問題については、日本固有の領土である北方領土や竹島に関し未解決の問題が残されていること、日本固有の領土である尖閣諸島に解決すべき領有権の問題は存在していないことなどを明確に記述しています。また、公民+αでは北方領土、竹島、尖閣諸島を取り巻く情勢についてさらに詳細な記述を設けるとともに、他国において平和的に領土問題が解決された例を示しています。
		<p>伝統文化の尊重と国際理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統と文化を理解し、我が国や郷土を愛する心情を育むとともに、多文化共生社会に向けて、国際社会の平和と発展に寄与する態度が養えるよう配慮しました。
		<p>社会の持続可能な発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境の保護や、貧困の解決、平等の実現など、経済や社会の発展を調和の下に進めていくことが必要であることを理解し、探究することができるように、学習内容に応じて取り扱いました。
その他	家庭学習への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・予習や復習にも使えるように、本文ページでは「学習課題」「確認・表現」を設けています。 ・教科書 QR コンテンツ「確認小テスト」は、答え合わせや誤答した問題の振り返りが生徒自身で行え、家庭での予習・復習にも活用できるようにしています。
	18歳成人・18歳選挙権	<ul style="list-style-type: none"> ・18歳成人や18歳選挙権に向けて社会への興味・関心が高まるよう、本文やコーナーに加えて特設ページ「明日に向かって」などで社会参画、主権者教育、消費者教育などの充実を図りました。
	デジタル教材の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・紙面上の二次元コードから弊社 Web ページにアクセスすることで利用できる「教科書 QR コンテンツ」として、節の学習内容のポイントを示す動画「イントロダクションムービー」、本文ページの1見開きごとの基礎的・基本的な知識の定着を確認できる「確認小テスト」、章の問いや節の問いを構造的に記入していける「ポートフォリオ」などを用意しており、ICTを活用した授業の幅を広げ、生徒の個別最適な学習に対応できるようにしています。また、学習者用デジタル教科書の発行を予定しています。
	特別支援教育・ユニバーサルデザインへの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書全体を通して視認性の高いユニバーサルデザインフォントを使用し、振り仮名には判読しやすいゴシック体を使用しています。また、グラフ・地図等の図版は、色覚に特性のある生徒も読み取りが可能になるように CUD に配慮した配色や処理を施しています。
	判型	<ul style="list-style-type: none"> ・AB判を採用し、写真等の図版を大きくして、生徒の興味・関心をひきやすくし、広くなる左右のスペースにグラフや各種資料を掲載して本文内容の補完の充実を図りました。
	印刷・製本	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷は植物油インキを使用し、本文用紙も再生紙を使用して環境に配慮しました。 ・十分な強度をもち、軽くて裏写りが少ない用紙を使用して、教科書の軽量化を図りました。 ・製本は、堅牢なあじろ綴じを採用し、開きやすくしました。

2. 学習指導要領との対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
これからの社会をどんな社会にしたい？	A～D	巻頭1～2	1
第1編 私たちと現代社会	A	P.6～37	15
第1章 私たちが生きる現代社会	A (1)	P.6～23	(8)
1 私たちが生きる現代社会の特色	A (1)	P.8～17	(4)
2 現代社会の文化と私たち	A (1)	P.18～21	(2)
第2章 現代社会の見方・考え方	A (2)	P.24～37	(7)
第2編 私たちの生活と政治	C	P.38～127	38
第1章 個人の尊重と日本国憲法	C (1)	P.38～81	(19)
1 法に基づく政治と日本国憲法	C (1)	P.40～47	(4)
2 日本国憲法と基本的人権	C (1)	P.48～73	(10)
3 日本の平和主義	C (1)	P.74～77	(2)
第2章 国民主権と日本の政治	C (2)	P.82～127	(19)
1 民主政治と政治参加	C (2)	P.84～93	(4)
2 国の政治のしくみ	C (2)	P.94～113	(8)
3 くらしを支える地方自治	C (2)	P.114～123	(4)
第3編 私たちの生活と経済	B	P.128～187	27
第1章 市場のはたらきと経済	B (1)	P.128～169	(19)
1 経済のしくみと消費生活	B (1)	P.130～143	(6)
2 生産の場としての企業	B (1)	P.144～161	(8)
3 金融のしくみとお金の大切さ	B (1)	P.162～167	(3)
第2章 国民の生活と政府の役割	B (2)	P.170～187	(8)
第4編 私たちと国際社会	D	P.188～230	19
第1章 現代の国際社会と課題	D (1)	P.188～221	(15)
1 国家と国際社会	D (1)	P.190～203	(6)
2 国際社会の課題と私たちの取り組み	D (1)	P.204～217	(6)
第2章 私たちの課題	D (2)	P.222～230	(4)
		合計	100

※「学習のはじめに」「まとめと振り返り」「チャレンジ公民」には、それぞれ1時間を配当しています。